



図書館長の 未来展望

「ああ、図書館ね。あそこにあるのは知ってるけど…、行ったことないねえ。」
私が図書館に勤めていると話すと、たいいていの方はこう言います。現在、足立区で図書館の利用登録をしている方は区民の約3割。実際に利用しているのは、その中でも2割程度ではないかと言われています。公の施設なのに、利用する人はほんの一部。そんな施設が、はたして必要でしょうか？ 図書館本来の目的を考えると、地域の全ての方に利用される場所でないければならないはず。

図書館は好きですか？

ネットがあればいい？

では、なぜ多くの方が利用しないのでしょうか？ 遠い…、時間がない…、いや、「自分には関係ないところ」だから。本なんて読む暇がないし、インターネットで十分。そんな方も多いのではないのでしょうか。

もちろん、現代社会ではインターネットは必要不可欠。図書館でも、利用者のためのネット環境整備は課題です。ただ、情報の信頼性では、まだ紙媒体の方が上だと言われています。紙と電子、両方を組み合わせ、最適な情報を提供する。そんな図書館が必要とされています。

井戸みたいな図書館

また、今までは本(情報)と人をつなぐ機能だけでしたが、今は、人と人をつなぐ役割も期待されています。私は図書館を井戸端会議の井戸のよう

子どもたちの未来を守る

11月、各中学校の校外委員の方にご参加いただき、東京未来大学子ども心理学部長で足立区防犯専門アドバイザーの出口保行氏を講師に招いた講演会を開催しました。

「攻める防犯という考え方から私たちができること」をテーマに、とても身近な内容から、子どもたちを守るにはどうしたらよいか、解りやすく解説していただきました。

例えば、「年少者を狙った性犯罪は、午後5時が最も起こりやすい」とか、「年少者を狙った性犯罪は、公園で最も起こりやすい」など。犯罪は多様化しているので、PTAや地域も積極的に防犯に取り組んでい

くことが大切だと感じました。

さらに、12月には進路委員を対象にした講演会を開催。私立桜丘高等学校(北区)・都立江北高等学校(足立区)・都立橋高等学校(墨田区)の先生を講師として招き、「私立・都立高校、各校各科の特色について」をテーマにお話いただきました。高校を選択するにあたり、特色のある学科を理解するよい機会となりました。子どもの未来を決めるとき、何に重点を置くか、親子でよく相談することが重要です。子どもたち一人ひとりの個性を活かせる進路に出会えるよう、今後もこうした機会を設けていきます。

地域の安全も子どもたちの未来も、大人たちが自ら学ぶことが大切であると改めて感じた講演でした。

役に立ちたい！

な、情報交流の場にしたいと常々思っています。その第一歩が、ビブリオバトルです。ビブリオバトルは、今まで知らなかった本に出会う場であり、知らなかった人に出会う場です。新たな出会いは、新たな交流の始まり。図書館をそんな出会いの場にしていきます。

そして、交流には会話が必要です。今まで、図書館は静かに利用する場所でしたが、私はにぎやかな場所にしたと思っています。例えば、赤ちゃんを連れてお母さんが気兼ねなく立ち寄れる。友達と一緒に楽しく勉強する。それが当たり前前の図書館を目指します。図書館は街の役に立ちたいのです。皆さんの役に立つ事こそが、図書館の存在意義です。そしてその為に、これからもっと進化します。どうか、やよい図書館の未来にご期待ください。